

区域内に駅前アパートを入れたままというのは、準備組合に全ての負担を押しつけたものだ。協調補助金しか出さないのであれば市営アパートについては、計画区域からはずし、解体するにせよ、存続するにせよ、市が責任を持つべきではないか。

総合計画の策定について
17年度策定予定の大村市総合計画を、第4次行政改革大綱と財政健全化計画による財政見通しができるまで、策定を延期すべきではないか。

助役 これまでの計画では、公営住宅の建替え、撤去というのが前提に入っていた。今回、協調補助の範囲内と言う話をしてるので、区域内には入っていないが公営住宅の撤去は考えていない。駅前アパートの取り扱いについては、早急に検討をしていきたい。

市長 新総合計画の策定に当たっては、行政改革大綱や財政健全化計画との調整を図りながら、実行型の計画を目指すものである。より実効性のある計画とするため、行政評価と連動をさせながら、各施策に目標値を設定し、進行管理を行いたい。これまでは、行政評価というものの導入が十分でなかったと考える。そういう意味で、目標を数値で示すということである。なお、

新総合計画は、平成17年度中に策定することになっている。具体的な内容については、現在作業中であるが、基本構想は9月議会への提案を予定している。

助役 行革大綱、あるいは財政健全化計画について、9月ということになる日程的に相当厳しいものがあるが、ある程度参考になるようなものを示したい。
(その他の質問事項)

市営住宅入居者の決定を申し込み順にできないか。
清掃センターの休日搬入を実施すべきだ。

大村市民の歴史的財産である国指定の文化財イチイガシ天然林に対する迂回道路建設を問う。上駅通り市街地再開発に対する市の姿勢を問う。

小林議員 都市整備行政についてイチイガシ天然林群は豊かな狸ノ尾の水源となり、森林浴等による市民の憩いの場所でもある。市はこの天然林保護対策として二百mの迂回道路を建設中である。問題は、イチイガシに最も接近する四百mの道路がその完成により、交通量が増え排気ガスが新芽の時期に南風に乗って直接当たり、害を及ぼすことである。迂回道路と言ふな

ら目的はイチイガシ保護の迂回道路であるべきである。このことを逸脱していないか考えを問う。

上駅通り市街地再開発における現況調査費は、平成10年に市を窓口として県を経由し、国において一定の拠出配分により予算がついた。つまり、市の重要な窓口業務なしに再開発は一步たりとも前進しないことの証左である。仮に準備組合の理事長が一連の書類を市を無視して県に上げたとしても受理されない。つまり、市と準備組合は一心同体の密接な関係である。従って市の応援発言は成立しない。今後の再開発の対応を問う。

市長 今後、イチイガシ原生林の保護を進めていくために、全区間で工事の切り盛り土部分の緑化を行うとともに、計画道路とイチイガシ原生林とが近接する約四百m区間については、長崎県文化財保護審議会や県、市の教育委員会等と十分協議をしながら、最も効果的な緩衝緑地の設置を検討してまいりたい。イチイガシ原生林の保護を行う上で最も効果的な、現道への一般車両の立ち入りを禁止した観察遊歩道の設置もあわせて検討してまいりたい。
上駅通りの活性化、再開発は、避けて通れないと思っている。

そういう意味から、準備組合と市とが一体になり信頼関係を回復したい。信頼関係が損なわれたのは私どもに大いなる責任もあると思う。大幅な計画変更せざるを得なくなったということについて、財政的に、理由はともかく責任があり、その点では可及的速やかに準備組合と一緒に胸襟を開いて、これからどういふものをやっているのか建設的な方向で十分話し合いをしたい。



イチイガシ天然林